

国見町は、千年以上育まれてきた国見の歴史・伝統・文化をこれから百年後に伝えていくため、これを生かした「歴史まちづくり」を進めています。このコーナーでは町や地域が行っている取り組みについて、毎月お伝えしています。

【企画調整課地域振興係 ☎ 585-2967】
【あつかし歴史館 ☎ 585-4520】



Vol.74

史跡阿津賀志山防塁 くにみ蓮まつり 2023 ～蓮樽の紹介～

今年も蓮の開花の時期になりました。7月8日から30日にかけて、あつかし千年公園でくにみ蓮まつりが開催され、多くの来場者で賑わいました。

公園内の蓮池には、中尊寺蓮と大池蓮の2種類の蓮が植え付けられています。大きな違いは立葉の肌触りで、葉の半分がガサガサしているのが中尊寺蓮、全体的にツルツルしているのが大池蓮です。

そのほか公園内では樽に入れて育成し、展示している約20種類の蓮もあります。そこで今回は、あつかし千年公園に設置されている、樽に入った蓮を紹介します。



蓮池北側にある蓮樽

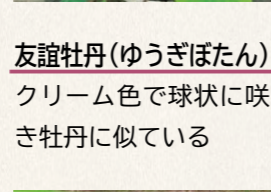
くにみ蓮まつりでは、蓮の葉を使った草木染体験や蓮シャワーも行われました。

樽に入った蓮は、あつかし千年公園のほか、道の駅国見あつかしの郷や、あつかし歴史館にも展示しています。ピンク色ではなく白色の蓮や、形が異なる蓮など、町内で多種多様な蓮を見ることができます。

間もなく見頃を終える蓮ですが、さまざまな蓮をお楽しみください。



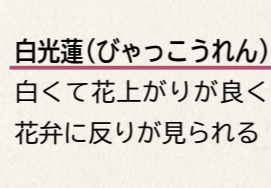
酔妃蓮(すいひれん)
開花初期はピンク色だが次第に白くなる



友誼牡丹(ゆうぎぼたん)
クリーム色で球状に咲き牡丹に似ている



知里の曙(ちりのあけぼの)
初期の花は紅と橙の中間色で曙を思わせる



白光蓮(びゃっこうれん)
白くて花上がりが良く花弁に反りが見られる



第10回国見町に咲く中尊寺蓮絵画コンクール作品募集中!



第9回 一般の部 最優秀賞作品

(一社)二重堀サポートネットワーク主催による「中尊寺蓮絵画コンクール」を今年も開催しています。

【募集内容】

- 題材** 国見町に咲く「中尊寺蓮」と「阿津賀志山防塁」
- 用紙** 四つ切り画用紙 (39 cm × 54 cm) ※応募は1人1点まで
- 募集期限** 8月25日(金)
- 提出方法** 企画調整課地域振興係・あつかし歴史館へ持参、または郵送で提出



伊藤 愛
(Ai Ito)

— Activity Report —

Vol. 36

地域おこし協力隊活動日記

エリアデザインラボ開催中——

こんにちは！4月から活動している関係人口創出チームの伊藤です。
6月に、まちづくり実践講座「エリアデザインラボ2023」の説明会を実施しました。今年は町内外の高校生や大人29人のメンバーを迎え、遊休化しつつある「藤田駅前広場」の活用について、天候に左右されない小屋づくりなどの実現に向けた具体的なプランを作成します。

次回8月20日(日)の活動では、「エリアデザインラボ・サミット」と題して、過去の受講生との交流会兼勉強会を開催し、現在どんな取り組みをしているのか話を聞きます。興味のある方はメールまたは公式LINEにお気軽にご連絡ください！

また、「エリアデザインラボ2023」で話し合った内容について、11月23日(日)に町民の皆さんへ向けた活動報告会も予定していますので、お楽しみに！

Email: 923areadesign2023@gmail.com

開催予定: 毎月第3日曜日 午前10時から午前11時30分
※天候等で変更あり

開催場所: 国見町大字山崎字館東 14-8
Co-learning Space アカリ 2階スタジオ



【公式LINE】



6月4日の説明会の様子



7月16日の花壇整備の様子

むかしむかし、信達平野が湖の時代。石母田の峠が道路になっていた頃、荷物をつけた牛がその道路を通った時に、足を滑らして転げ落ちてしまいい、それが石になったと伝えられています。
信達平野が湖水だったという証拠は、あつかし山の中腹、今は展望台や道路に開発されましたが、昔もそこには道がありました。そこで露出している岩に、貝の化石がくっついていたりしたそうです。実際に帆立貝の化石を採ってきた人もいたとか！
その湖水はどこにいったのかというと、五十沢の「猿ばね」というところに吸い込まれて、太平洋まで流れていったと伝えられています。



「上街道ころげた牛は石になり」

国見の民話
かるた

【第四回】
石母田の牛石